

道博協ニュース

第45号

発行 平成5年12月28日
 発行所 北海道博物館協会
 事務局 札幌市厚別区厚別町小野幌
 北海道開拓記念館内
 電話011-898-0456
 FAX 011-898-2657

第41回全国博物館大会

盛会裡に終了

北海道で六年ぶりに開催さ

れた第41回全国博物館大会

(日本博物館協会主催、北海道博物館協会など共催)は、

十月二十日、二十一日の両

日、まれにみる好天気恵ま

れて、会場となった札幌市教

育文化会館、北海道開拓記念

館を圧する四百名の熱気につ

つまれて、無事終了すること

ができました。

大会テーマの「わが国博物

館の基盤を再検討する一人・

財政・研学を視点に」のス

ローガンのもとに五名の講師

陣をまじえて、熱心な議論が

行われ、その余韻は、全体会

議・閉会式の会場となった北

海道開拓記念館の荘厳な記念

ホールを超過員にするなど

「かつてなかった迫力ある大

会であった」とは、東京から

来た日博協実行委員会の中核

となった役員の手紙でした。

詳細な報告は、現在、とり

まとめられつつある日本博物

館協会の正式報告を待つこと

として、本大会を裏で支え、

盛り上げられた北海道博物館

協会の渡邊左武郎実行委員長

をはじめとする本協会実行委

員の方々ならびに主管の北海

道開拓記念館現地事務局の諸

氏には、心からお礼を申し

たいと思います。

本大会で北海道博物館協会
 が大きくかわった任務の一
 つとして、第一日目のプリン
 スホテルでの懇親会がありま
 す。

学会や大会におけるこの種

のパーティーの役割は、決し

て主役ではありませんが、そ

れの成否は、大会が成功する

か否かの重要な要素でありま

す。

実行委員会事務局では、開

催に先立って、北海道博物館

協会傘下の各館園に、各地の

一村一品運動による名産品な

どの提供をお願いしたとこ

ろ、快くこれに伝えてくれ、

当日の乾杯用の四ツ葉牛乳や

サッポロビールをはじめ、

数々の各地の名産品を加盟館

園から提供していただき本当

にありがとうございました。

懇親会場の一角に設けられ

たこのコーナーは、非常に好

評で、地酒を片手に北海道の

味の一周ができる趣向で東京

や関西などの参加者から好評

を博しました。

二十二日からのAコース

(道央方面)、Bコース(道

東方面)に分かれての視察旅
 行は、筆者もAコースの世話
 役として同行しました。あい
 にくの雨模様となり、少々強
 行きみのスケジュールであり
 ましたが、参加者は、全員エ
 ネルギッシュに見てまわり、

また夜はちまたの赤い灯のも

とで情報交換をしながら地域

経済に貢献するなど楽しい旅

行でした。ここでも渡邊左武

郎会長や、各見学施設からの

ご配慮で飲み物や地域の名産

品などの差し入れが数々あり、

参加者は心ゆくまでの

サービスに感謝しております

た。

本大会を成功させてくれた

のは、ひとえに、本部および

現地実行委員会の努力もさる

ことながら、一方では、視察

研修の場となった加盟各館園

の皆様方の心厚いおもてな

し、ご配慮もあつてのこと

と、関係者の一人として、深

甚なる感謝の意をあらわしま

す。

(北海道博物館協会

事務局長 野村 崇)



第41回全国博物館大会

平成5年度学芸職員 研修会を終えて

十月一日・二日の両日、5年度
の研修会が「やきもの里」
江別市で七二名の参加者を集
めて開催されました。

一日は野幌公民館におい
て、講習「博物館と著作権
法」さらに今回のテーマであ
る「新しい博物館のディス
プレーについて」の研究協議が
行われました。

展示に当たってその解説や
説明資料の作成、研究論文を
書き上げる時、講演資料の作
成、図録の作成等々、日頃自
分たちの身の回りでやってい
ることが、実は「著作権法」
に低触しているとしたら
ら・・・。

著作権法って、「アレだろ
う・・・」といっても、どの
程度まで知っているのだろう
か、自分自身、中身に曖昧な
部分がかなりありました。

今回の講習を受けたばかり
に「著作権」については少し
うるさくなってしまい、資料
等を作るときには、「これは
「著作権法」にふれるか
ら・・・」などと言って、な
かなか仕事が進まなくなっ
てしまうということがでない
も限らない・・・と思うのだ
が。

それはともかく、「博物館
と著作権」という標題で講習
を行っていたいたのは、北
海道教育庁文化課社会教育主
事の廣瀬隆人氏です。

著作権法は、著作者の人格
的、財産的利益を保護し、文
化の発展に寄与することを目
的に制定されたもので、著作
権に対する認識の度合いは、
その国の文化のパロメーター
といわれています。講演のな
かで例題としてあげられ、解
説をした事例のひとつを紹介
します。

*F博物館のT学芸員は、職
務上の参考資料として用いる
ため、職場にあった本を複製
した。「著作権法上の許諾が

必要となってくる」ただし

「私的使用の場合は許諾はい
らない」この場合、職務のた
めであるから、その行為は業
務の一環とみなされ、私的使
用とは言いがたい。

というような演習問題と解
説という手法の講演はあつと
いう間に時間切れとなつてし
まった。もう一度事例を数多
く出していただき、それを参
加者で考えようというような講
習を開催することができたら
と強く感じました。最後に、

最も著作権についてルーズな
ひとたちは？（学校の先生だ
と講師は言っていました。）

次いで、「新しい博物館の
ディスプレイを考える」とい
う今回のテーマに沿った二つ
の研究協議が行われました。

研究協議Ⅰでは榎丹青社デ
ザイン本部演出技術室長横田

国臣氏が「最近の映像・音響
の新機種および傾向」と題し
て、研究協議Ⅱでは榎乃村工

藝社ソフトシステム本部文化
環境技術研究所長高橋信弘氏
が「最新の二次資料における
演出効果について」と題して

それぞれ提言をいただいた。

横田氏はまず最近の博物館
における傾向として映像ス
ペースの占有率の拡大をあげ
ておられ展示「館の目玉」と
して大型映像の導入の傾向が
見られるという。

「より自然に」、「より鮮
明に」そして「迫力ある」展
示の一つとしての大型映像の
導入は来館者に興味を持たせ
るための仕掛けとしてこれか
ら重要な要素となることで
しょう。ただ、ソフト、ハー
ドとも決して安くはない費用

である。大型映像にかかわら
ず新しい機種を導入するには
まず、展示の基本方針、理念
のなかから導き出される展示
手法の一つとしてどのような
ものがふさわしいのかを十分
検討しなければならぬと感
じました。

次いで、高橋氏は展示室様
式の歴史の変遷を述べられ、
「装置」、「空間」、「ドラ
マ」、「テーマパーク」環

境「の系譜として具体的な事
例を挙げて説明された。

最近の展示空間のあり方に

ついて、かつてのような大部
屋風のものから、空間にメッ
セージ性を持たせた独自の空
間作りに変容してきた。

映画のセットのようなジオ
ラマ、展示のユニット化、ド
ラマ仕立ての展示、参加性の
ある展示等々、時代の流れと
ともに展示に対する考え方、
手法に変化の兆しが顕在化し
てきたという。

マチづくり推進事業の一環
として博物館づくりが行われ
ている昨今、地域の素材を生
かした博物館作り、あるいは
既存の施設にあっては、新た
な視点からの展示方策のブラ
ンニング等、今回の両氏の提
言がわれわれに投げかけて下
さったことは非常に大きなも
のでした。

最後になりましたが、今回
の研修に当たり江別市教育委
員会、とくに江別市郷土資料
館の高橋館長をはじめ、職員
の皆様の献身的な協力があ
り、盛会裡に終了できました
ことを申し添えておきます。

(学芸職員部会事務局長

矢吹 俊男)

平成5年度 全道ブロック館長会議

〜名寄リポート〜

道開拓記念館の主催、道博協、道北ブロック博連協の共催による平成5年度博物館活動交流推進会議「全道ブロック館長会議」が十一月十一・十二の二日間、道北の名寄市で開催された。

当日は全道各地の館員より五十名近くの関係者の参加があり、初冬の名寄は雪は未だ早いものの、ピヤシリ岳を背景に抜けるような青空が広がる本格的な厳しい冬を目前にしたたたづまいを見せていた。

初日、道開拓記念館渡邊館長、名寄市教育委員会赤部教育長の開催の挨拶の後、佐々木高明国立民族学博物館館長の「情報発信基地としての博物館」と題した講演が行われた。講演の冒頭、自ら「発言は過激」と前置きはあったものの英国、大英博物館のKeeperという専門職の話から始まった内容は専門の民族学

の視点から、情報蓄積とその提供の場としての博物館機能の必要性を強調し、国内の博物館の設置運営の現状に対しては厳しい指摘を加えながら、その背後にある問題点を明快に突く実に菌切れの良い迫力に富んだ講演内容であった。



講演風景

雪クリスタルホールの中に新館オープンした旭川市博物館其田館長を講師に、講演に引き続き民族学博物館佐々木館長の参加を願ひ、苫小牧市博物館佐藤館長の司会によって進められた。

最初の提言者、木村助教は、専門とする社会教育の立場から発言の冒頭、佐々木館長の講演内容にあった社会教育の捉え方に反論する場面もあり、立ち上がりから熱気を帯びた緊張感の中で始まった。地域の生活文化の歴史の中から、それを土台に新たな地域文化を創造する拠点としての地域博物館の捉え方、課題、期待が述べられた後、その後を受けて其田館長からは新しくオープンした旭川市博物館の展示情報機能の紹介の中から地域博物館のあり方を示す具体的報告の後、会場参加者を含めての全体協議へと移った。

協議の中では、社会教育と生涯学習についての論議やハイビジョン映像やコンピュータ応用展示機器など各種の

情報機能の導入や問題点などの突っ込んだ意見、名寄市の目指す地域博物館の建設の構想の報告など、活発な意見交換が行われた。

全体に司会の進行の手際の良さや講演から研究協議に一貫したテーマの流れがあったこともあり、引締まった終始熱気の籠った中で協議を終了し、当日最後のプログラムである懇親会へと引継がれた。

二日目は朝から下川町ふるさと交流館、風連町歴史民俗資料館、名寄市の新博物館建設予定地の視察が行われ、下川町では毛鋼毅蔵氏の設計によるユニークな建築と「曜」をテーマとした展示、風連町では道北の農業をテーマとした展示を見学。名寄市の新館建設予定地ではミズナラの原生林を配した北国を意識した博物館づくりの計画を聞くことができた。

今回、名寄市での二日間の全道ブロック館長会議では改めて博物館が根ざすもの、そして目指すものが何であるかを強く意識させる機会であったように思う。



研究協議

(夕張市石炭博物館館長 青木隆夫)

○会費納入のお願い○

本協会の円滑な運営のため、未納の会員はご協力をお願いいたします。

団体会員 一万五千元
賛助会員 二万円
個人会員 三万円

(銀行口座)

北海道拓殖銀行新さっぽろ支店
(普通)一八六一二八七〇〇〇
(郵便振替)七二二九四一九

苦小牧市博物館における 友の会活動

苦小牧市博物館友の会は、開館3年を経過した昭和63年7月31日付で発足している。

友の会の目的は、様々な博物館活動を通し、郷土の自然、歴史などの理解を深めると共に、館活動に寄与し、また会員間の親睦を図ることである。

友の会事務局は、博物館内におかれ、博物館としても、その育成に積極的に取り組んでいる。

友の会の主な活動内容は、毎月の行事案内の配布、体験学習会、見学会、講座、特別展勉強会などの行事の実施と、年一回の会報の発行などである。

今年度まで五ヶ年にわたり友の会活動を行ってきたが、これまでの実績を踏まえた上で、さらに将来の展望を含めた報告を行ってみたい。

当館友の会活動の良い点は、第一に各行事が館とは別

な立場からの自由な発想のもとで企画立案、実行されてきたことであろう。

これは、画一的な行事の多い一般の風潮からみれば、多少のもどかしさはあるものの事業推進の基本として継続したい点であると考ええる。

その事業例としては、市内に残された史跡や博物館にある資料をもとに、郷土の歴史

や文化を学び、埋もれた郷土史を掘り起こそうというテーマのもとに開催されている「歴史散歩」や「武四郎の道を訪ねて」などの歴史系行事がある。

また、「もちつき」に関しては、会員間に何人かの熟練者がいるので、体験学習としても、すばらしい成果がみられた。

さらに、今年度からは、かつて苦小牧で栄えたイワシ漁にちなんだ「イワシそばづくり」など郷土色豊かな楽しい行事も加わっている。

このほか、年に一度は、バスを使って、近郊の博物館や企業などの見学会を実施し、学習と共に、会員間の交流と親睦を図っている。

これらの行事を通じて、参加者が全員、明るくのびのびと活動し、しかも熱心だった点は心強く、豊かな情操を養いながら、科学的な物の考え方が会員に定着していく様子がわかるようで頼もしく思われる。

他方では、これまで事業を



実施してきた上で考えられるいくつかの課題もある。

それは会員登録人数の割に実際に活動に参加した会員が少ない点である。

特に中高生の参加がきわめて少なく、これは、彼等が若年会員のリーダー的存在になり、将来的に友の会活動を引っばっていつてもらいたいと考えるだけに大変残念である。

二点目は、本来アドバイザーであるべき館職員に、行事企画から実践までを依存しているケースがある点であ

ているケースがある点であり、そのための協力体制の強化が今後の重要な点であろう。

友の会では、現在ほぼ月一回の割合で行事を実施しているが、行事を増やす、それに伴う館職員の負担も大きくなる、そのため、専属の友の会ボランティアの育成なども必要となってくるであろう。

これらの点を踏まえ、会員と館職員の相互理解を図りつつ、会員のニーズに応えられる友の会活動をめざしていきたい。

(苦小牧市博物館)

学芸員 武田 正哉

○博物館関係図書頒布
本年度の滝川市で開催された北海道博物館大会での講演者である前国立科学博物館長の諸澤正道氏の編さんによる『開かれた博物館を目ざして』(A5判373頁)が若干、事務局に残っています。一冊二五〇〇円、送料三八〇円です。同館が開館百年を目前に同館のリフレッシュを実施した際の記録。希望者は事務局野村まで連絡下さい。



自然史学とは、糸魚川（一九九三）を要約すると、地球・生物の46億年という長い地史的時間経過（進化）の中で成立してきた自然の姿をあらがままに、かつ総合的にとらえる学問、と理解できる。

表は、日本の自然史系・地学系の博物館の数と比率を示したものであるが、自然史系についてみると、北海道は全国平均を大きく上まわり最も高い比率を表わしている。また北海道府県別では、多い順に沖繩、高知、秋田、群馬に次いで北海道は第5位にランクされている。この数字だけを見ると、「北海道は豊かで大きな自然を生かした、自然史系博物館の活動が盛んな地方である」として捉えられるが、館種としては、その多くは総合館や他分野との合併館の一部として存在しており、また地域の自然史の研究や教育の中心施設として発展するには、まだまだ多くの問題点が含まれている。

自然史博物館は自然史資料を材料とする博物館であるが、ここでも博物館の三つの基本的要素「もの」、「人」、「建物」と「収集・保存」、「調査・研究」、「展示」、「教育・普及」といった四つの機能をもとに成り立っている。そして地域の自然の調査・研究は地域の自然史博物館の最も大きな研究テーマである。しかし現在の北海道の市町村規模の博物館においては研究者（学芸員）

が求められる。ひとつの例として、層雲峡博物館では一九八九年より小樽市博物館・倶知安町教育委員会との合同による羊蹄山調査、一九九〇年より利尻町立博物館との合同による利尻・札文・サロベツ国立公園の調査、そして一九九三年より知床博物館・知床自然センターとの合同による知床山系の調査を実施、継続している。これらの調査は筆

自然史系学芸員の現場から① 自然史系博物館の新しい方向

大雪山国立公園層雲峡博物館 館長 保田 信紀

者の専門分野である昆虫類を中心に行われているものであるが、調査で得られた資料や情報や地域に還元することによって、それぞれの地域にふさわしい調査・研究、さらに展示、教育・普及活動への貢献が果たされていくものと考えられる。

全国的にみると、自然史系博物館の比率は着実に増加している。また道内においても自然史系の学芸員の数は以前に比べてかなりの増加傾向にある。しかし、先にもふれたように、地方の多くの小規模館では、多忙雑多な博物館活動の中で、細々と本来の研究活動を続けているのが実態である。このような状況の中で、学芸員の自然史に関する情報のネットワーク化を計るとともに、北海道の自然史研究の水準を高め、その研究成果を明らかにし、さらに組織的に研究する、などの目的をもって発足したのが「北海道自然史研究会」である。

北海道自然史研究会のスローガンのひとつに、北海道自然史研究機関の核ともなる“北海道自然史博物館”の建設促進を掲げている。広大な豊かな自然を最も誇りに持つ北海道にあって、これまで道立レベルの自然史博物館が誕生しなかったことに大きな疑問を感じるところであるが、ぜひ早期実現が望まれる。これは単に「建物」とどまることなく、北海道の自然史の研究・教育の全体レベルの向

日本の自然史系・地学系の博物館の数と比率（糸魚川1990）

	自然史系の数		地学系の数	
	数	%	数	%
全国 (動物園などを含む)	4057	382	124	3.1
北海道	3673	382	124	3.4
東北	322	49	12	3.7
関東	337	38	15	4.5
中部	539	66	23	4.3
近畿	270	13	3	1.1
四国	902	99	36	4.0
九州	463	33	6	1.3
(動物園など含まない)	320	17	9	2.8
	155	20	7	4.5
	365	47	13	3.6

上に計り知れない貢献が果たされるものと信じる。

かつて、大英自然史博物館やパリ自然史博物館を訪れたとき、その歴史とスケールに圧倒される思いを感じたことがあるが、最近では日本でも大阪市立自然史博物館や千葉県立中央博物館などのように地方の「自然と人」に密着して、すぐれたリーダースhipを展開している博物館もある。豊かな自然に恵まれた北海道にこそ、それにふさわしい自然史博物館が望まれる。

館 園 紹 介

星の降る里百年記念館

芦別市では、昭和五十四年より郷土史研究会を中心に郷土資料館の早期建設を求める声が上がりました。その後、市当局が検討を重ね、芦別市開基百周年・市制施行四十周年記念の年に当たる平成五年秋の開館を目標に、平成元年から郷土資料館建設の準備作業を進めてきました。

そしてついに十月九日、市民待望の郷土資料館「星の降る里百年記念館」がオープンしました。館名は、開基百年を記念して建てられることとなったので「百年記念館」とし、それに芦別市の代名詞である「星の降る里」を冠しました。

当館は、国道三十八号線から分岐する芦別環状通に面した「道の駅」スタンプラザ芦別」の一角にあります。ここには、観光物産センター、豪華公衆トイレ、大規模駐車場ふれあい広場があり、背後には、空知川をはさんで北の京芦別が見えるという、いわば観光都市芦別の玄関口に当たります。

建築規模は、延床面積一五〇〇平方メートル、RC造一階建てと、やや小規模ながら前庭には通路をはさんで芝生が広がり、ロケットをイメージした三本のタワーとコンクリート打ち放しの個性的な表情がマッチした、芦別でもランドマーク的な建築物です。当館の建設に当たっては、

本格的な生涯学習時代を迎えつつある時代のニーズに添えるべく、社会教育施設としての機能をもちながらも、観光客に対する各種情報提供も行う、さらに芦別二世紀に向けての文化的まちづくりの拠点とするという目的を掲げました。こうした目的を果たすため、館内に展示室、イベントホール、多目的ホール、研修室などの各室を設け、最新の視聴覚機器やパソコンを使用した「マイタウン情報」なども設置し、来館者が自由に観覧できるように工夫しています。

当館は、その展示内容から総合系の博物館相当施設と言えますが、「参加する」または「触れる」ことにより、楽しみながら学習できるといった点に留意して展示の構成を行いました。

これまでの来館者の感想によれば、北海道初の星座学習装置「スタードーム」、特異な峰形で知られる「峠山」に咲く石灰岩植物群落のジオラマ、四十年前の炭住生活を再現したマジックビジョン小劇

場「炭鉱長屋の一日」などが人気を博しているようです。また、文学コーナーには、究極の私小説作家と言われた葛西善蔵関係資料や、芦別在住の歌人西村一平氏の師である与謝野寛・晶子夫妻との間に交わした多くの書簡類や作品が並び、文学ファンならずとも思わず魅了される展示物もあります。

これからは、豊富な資料を活用した特別展や学習会を企画し、市民サークルによる展示会等を開催する中で、誰もが気軽に利用できる施設づくりに努め、さらに、隣接する観光物産センターとの共催イベントを通して施設の相互利用促進を図り、過疎化にあえぐまちの活性化に寄与するような活動を展開する予定です。

きはその翌日)

祝日(子どもの日・文化の日を除く)

子どもの日・文化の日の翌日
年末年始(十二月三十一日から一月五日)

観覧料

小中学生 百円(五十円)
高校生 二百円(百円)
一般 三百円(二百円)

()は二十名以上の団体
特別展示は別料金

交通

JR芦別駅または中央バスターミナルより徒歩十五分
問い合わせ先
〒〇七五

芦別市四条東一丁目一番
星の降る里百年記念館管理係

電話

〇二二四二一四二二二一

FAX

〇二二四二一四二二二四

(星の降る里百年記念館)

学芸員 長谷山隆博)

開館時間

午前九時から午後五時まで

休館日

月曜日・火曜日(祝日のと

旭川市井上靖記念館

平成五年七月二十四日に、開館しました。場所は、旧旭川階行社（国指定重要文化財で、平成六年に彫刻美術館として開館予定）の隣に、建てられ、白を基調とした外観と周辺には、井上靖が「ナナカマドの赤い実の洋燈」と詩にかいているのにちなみ、ナナカマドの木を植えて、落ち着いた雰囲気醸し出していきます。

井上靖は、明治四十年五月六日に旭川で生まれ、随筆「幼き日のこと」の中で、旭川について多くの思い出を綴っていますが、記念館は、井上靖の八十二年にわたる生涯を十のコーナーに分け、原稿、著書、日常の愛用品、親交のあった芸術家の作品、研究ノートなどを展示し、井上靖の一生を展観できる構成となっています。

各コーナーは、一、幼き日のこと 旭川で生まれ、「しろばんば」の舞台となった伊豆の幼き時代 二、青春放

浪 沼津中学から京都帝国大学までの学生生活を通しての青春時代 三、新聞記者時代 毎日新聞記者として活躍した時代 四、美しきものとの出会い 美術記者として芸術家との親交 五、芥川賞受賞 作家としての出発点 六、氷壁 大きな反響のあった新聞小説 七、西域の夢 シルクロードとの出会い 八、時間と空間を超えて 八、時間と空間を超えて 八、時間と空間を超えて 八、時間と空間を超えて

母の思い出 十、在りし日 中国文化人との交流などの社会的活動に分けて、解説パネル、ゆかりの資料と組み合わせて展示してあります。その資料の中で主なものを紹介しますと、井上靖が生地旭川に思いを寄せ、母の思い出を綴った「旭川ノート」、母から父との思い出を書いた詩「五月のこと」、ベストセラートとなった「孔子」を書くために作ったノート、愛用の万年筆、「猟銃」の原稿「おろしや国酔夢譚」関係の調査資料などが展示されています。



が、この他に、金子鴈亭の井上靖の詩を書いた屏風、河井寛次郎の壺、平山郁夫の陶板壁画など生前親交のあった芸術家の作品も併せて展示してあります。

井上靖記念館は、展示活動の他に、市民が文学活動を行うことのできる拠点施設としての役割も持つために、ラウンジと研修室を設けてあります。ラウンジには、井上靖の著書を揃え、来館者が自由に読書できるコーナーを設けています。研修室は、読書会、講座、公演会の開催を予定し

ています。

また、「井上靖ナナカマドの会」という市民団体が活動し、現在会員数三〇八人登録され、事務局は記念館内にあり、会報が二号まで発行されています。

井上靖記念館は、旭川と井上靖のつながりを軸に、地域に密着した研究と普及活動をしていきたいと願っています。

旭川市井上靖記念館案内

- ・建物面積 四四五㎡
- ・開館時間 午前九時～午後五時
- ・休館日 毎週月曜日
- ・入館料 大人二百円 小人 一百円

- ・団体（二十人以上・大人百六十円 小人無料）
- ・交通 旭川電気軌道バス五番に乗り 四区一条二丁目下車

問い合わせ先

旭川市井上靖記念館

〒070 旭川市四区一条二丁目

TEL・FAX 〇一六六一
五二一一七四〇

（旭川市教育委員会
社会教育部課長補佐

表 憲章



●北海道新聞社学術文化研究奨励金募集のお知らせ

道博協会長あて表記奨励金募集の通知がありました。

本奨励金は、本道の学術文化向上のため自然・社会・人文科学などの各分野の研究者に一件二百万円を限度に三、五グループに贈られるもので、締切は二月十八日です。問い合わせは北海道新聞社文化事業部内「学術奨励金係」

◎九四年度の主な事業計画

一九九四年度の北海道博物館協会が主催または共催する事業の大枠が決まりましたのでお知らせします。

一、第33回北海道博物館大会
期日は、7/7・8、於旭川市大雪クリスタルホール

二、学芸職員研修会
十月上旬、於北海道開拓記念館

三、博物館活動交流推進会議(いずれも十一月の予定)
(a)館長会議、苫小牧市、(b)学芸員等会議道東ブロック、厚岸町、(c)同道北ブロック、留萌市、(d)同道南ブロック、江差町の予定。

◇館・園の主な行事計画◇

平成六年一月～三月

●道立旭川美術館

1・5～2・13「北の光―北欧の印象派」、2/19～3/27「A・MUSE・LAND '94」

●道立帯広美術館

1・5～2・13「ツイクトル・ヴァザリ展」、2・19～3・27「日本近代版画の歩み」、2・

19、講演会「近代日本の版画たち」

●道立北方民族博物館

1・16講習会「とんぼ玉を語る、とんぼ玉を作る」、2・1～3・8「鳥居龍蔵のみた北方の民族」、3・13「鳥居龍蔵・人と研究」

●網走市立美術館

1・12～23「オホーツク工芸展」
2・9～16「オホーツク写真展」、2・19～27「写真展・網走移動展」

●市立函館博物館(本館) 3・6

「青函交流史・津軽海峡」3・13「アルフレッド・デンビーの謎」(五稜郭分館) 2・20「武田斐三郎伝」

●北海道開拓記念館

1・5～3・13「泉山了谷の世界」、2・5・6「講習会、羊毛を紡ぐ」、2・20「森を歩く」、1・5～12「お正月」、1・5～2・27「羊毛を紡ぐ」、2・2・3「節分」、3・2・3「ひな祭」3・2～4・28「大工道具のいろいろ」

●夕張市石炭博物館

1/15～2/28「夕張の風景―ヤマの映画館・劇場」、3・15～4・15「収集資料展」

●夕張市美術館

1・21～30「絵画・書道新春合同展」、2・5～3・6「二部彫影刻展」

●滝川自然史美術館

2・6～2・14「滝川美術協会新春展」

●小樽市博物館

1・16・17「凧づくり」

●恵庭市郷土資料館

2・12「竹スキー作り」

事務局通信

平成5年度日本博物館協会

顕彰者

札幌市教育文化会館で開催された第41回全国博物館大会で、次の方々が表彰されました。

棚橋賞

矢野牧夫(北海道開拓記念館 特別学芸員)―受賞対象

論文「公立博物館の管理運営」(「博物館研究」第27巻8号、平成4年8月)

規定一号

北海道開拓記念館

小田島和平

小林 幸雄

新入会員

(団体会員) 門別町図書館郷

土資料館、星の降る里百年記念館(芦別市)、かみすながわ炭

事務局日誌

9・16(木)第33回道博物館大会補助金関係書類を道教委あて提出
9・21(火)平成5年度日博協顕彰者の確定通知(開拓記念館2名)

9・24(金)5年度博物館活動交流推進会議の共催承認書を開拓記念館長あて送付

10・1(金)学芸職員部会役員会(江別市)

10・11(土)学芸職員研修会(江別市野幌公民館)

10・3(日)「道博協ニュース」第44号発送。「全国大会にむけてのお願い」文書(「一村一品」、「一人一品」提供品など)を会員あて送付

10・14(木)事務局打合せ

10・18(月)～20(水)平成5年度アイヌ民族文化財専門職員等研修会後援(道教委主催、札幌市、かでの2・7)

10・20(木)～21(金)第41回全国博物館大会(札幌市教育文化

会館ほか)

10・22(土)～23(日)全国大会視察旅行(道央コース)

10・22(土)～24(日)全国大会視察旅行(道東コース)

11・5(金)～6(土)博物館活動交流推進会議(道東ブロック学芸員等会議、鹿追町、神田日勝記念館)

11・9、11、12(火)(金)第8回北方民族文化シンポジウム後援(財・北方文化振興協会、オホーツク国際流水ロード網走市実行委員会主催、網走市、網走セントラルホテル)

11・11～12(木)～(金)博物館活動交流推進会議(全道ブロック館長等会議、名寄市、グランドホテルメーブル)

11・12(金)第2回役員会(名寄市)

11・26(土)～27(日)博物館活動交流推進会議(道南ブロック学芸員等会議、八雲町、八雲町民センター)

12・3(火)～4(水)博物館活動交流推進会議(道央ブロック学芸員等会議、小樽市、ニューみなと)